

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.96 - 2016年12月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



世

世界中のいつくしみの聖年の扉が閉じられました。ソロモン諸島、ギゾ教区の旅する聖年の扉も。サレジオ会員ルチアノ・カペッリ司教の倦むことのない宣教のための創意工夫が生み出したこの扉は、舟で運ばれ、オセアニアの最も僻地の村々を巡りました。

親愛なる兄弟会員、友人の皆さん、今、私たちに問われているのは、すべての心、すべての共同体の宣教のいつくしみの扉が開かれているように-実に、大きく開かれているようにすることです。あの夜、おとめなる母がインマヌエルをお生みになる場所を探されたとき、扉が閉ざされていましたが、私たちの扉は決して閉じませんように。

貧しく見捨てられた主は今も扉を叩いておられます：扉を閉ざさないようにしましょう！

あらゆる大陸から来る多くの移民に扉を閉ざさないようにしましょう！

中東とアラブ世界のおびただしい数の若者たちに扉を閉ざさないようにしましょう！

ヨーロッパに、その若者の貧困と宗教心の砂漠化という前線に、扉を閉ざさないようにしましょう！

ラテン・アメリカの忘れられた先住民族の共同体の若者たちに、扉を閉ざさないようにしましょう！

迎え入れ、出かけて行くために扉を開く用意がありますか？ サレジオ会宣教師 ad gentes, ad exteros, ad vitam への呼びかけに応えること！ もしかするとこれは、愛する父ドン・ボスコへの最高のクリスマスの贈りものになるかもしれません。近いうちにお会いしましょう。



J. Basanes

宣教顧問
ギジェルモ・バサニエス神父



キリストは私たちのためにお生まれになる、 私たちの救いの日を喜び躍ろう！

「神

がお生まれになるところには、希望が生まれます。神がお生まれになるところには、平和が生まれます。そして平和が生まれるところには、もはや憎しみや争いが入る余地はありません。しかし、復活した御子が世に来られたまさにその場所では、緊張状態と暴力が続き、平和は依然として、希求してこれから構築するたまものにとどまっています。

.....
神がお生まれになるところには、希望が生まれます。そして希望が生まれるところでは、人々が自らの尊厳を取り戻します。今日でも数え切れないほど大勢の人々が、人間としての尊厳を奪われ、幼子イエスのように、寒さ、貧しさ、そして人々からの拒絶に苦しんでいます。もっとも弱い立場にある人々……に、わたしたちが今、寄り添うことができますように。極度の貧困や飢餓から逃れ、多くの場合、非人間的な状況の中で、いのちがけで旅をしている人々に、絶えず励ましを送ることができますように。

大勢の移住者と難民が、自分と自分の愛する人々の尊厳ある未来を築き、受け入れ社会に溶け込めるよう、彼らを助け、受け入れるために盛んに活動している個人と国家に、豊かな祝福が与えられますように！」



教皇フランシスコ 2015年降誕祭メッセージより

全文：<http://www.cbcj.catholic.jp/jpn/feature/francis/msg0270.htm>



皆様にとって、祝福に満ちた クリスマスでありますように！

「カリエロ11」編集チーム



宣教師の召命は、私が頂いた最高の贈りもの



分の宣教師の召命の始まりをふり返るとき、子どものころ、いつも母が、何かを頼もうとして私を呼んだのを思い出します。「こっちに来てこれをしてちょうだい」と。母に呼ばれると私はそのとき何をしていてもそれを中断し、願いに応えるためできるかぎり力を尽くしました。

私の宣教師の召命はこの呼びかけに似ていて、人生のある時点で聞こえてきたものです。ポストノビスのとき、宣教地に派遣してもらいたいと願い出たのです。仲間の3人はパプアニューギニアに派遣されましたが、私は派遣されませんでした。そのため私は幾度か自問しました。「どうして派遣されなかったんだろう？」それでもなお、私は宣教師の召命を育みつづけました。実地課程生として、それから神学課程でも、与えられた務めに最大限力を注ぐことで、心の中に燃える宣教の情熱を保ちました。

とうとう、神学の最後の年、院長から、私が2つの贈りものを頂いたことを伝えられました。司祭叙階の願書が受理されたこと、そして東チモールに宣教師として派遣されることです。しかし私の宣教師召命は、その直後に火で精錬されることになりました。

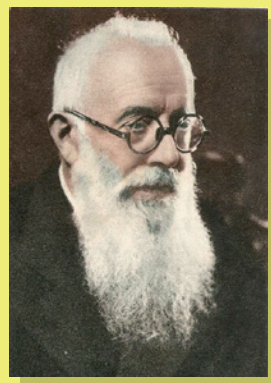
1992年、インドネシアからの独立運動が激しいころ、私はチモールに来ました。実際、チモールに入る許可が下りたことが奇跡でしたが、神の呼びかけに応えるとき、あとのことはすべて神が計らせてくださるのです。まもなく暴動が発生し、私たちの多くの修道院が焼き討ちされました。管区長は、国を呑み込もうとしている暴力から逃れる人々に寄り添うようにと私に願いました。全く混沌とした状況でした。誰も連絡がつかなくなりました。すでに死んでしまったと思い、私の永遠の安息のためにミサをささげた会員もいました！ 私は何か月もチモール難民と一緒にオーストラリアにいました。しかし、私たち皆への神のいつくしみ深い加護を疑ったことは決してありません。

この年月のあいだ、実に多くの困難や、命の危険にさえ直面することがありましたが、宣教師になったことを後悔したことはありません。かつて私は、宣教師になるということは告げ知らせたり教えたりすることだと考えていました。25年たった今、宣教師であるということはむしろ、忍耐、謙遜、優しさを生きることだとわかるようになりました。たびたび、どこで会ったかおぼえていない人に会い、言われることがあります。「主に近づけるように助けてくれてありがとう」。何年も前に、私が若者だったその人に司牧奉仕していたからです！

実に、サレジオ会司祭として、宣教師としての召命は、いつくしみ深い神から頂いた最高の贈りものだと、私は心から言うことができます。

神が呼ばれたなら、応えるのを恐れてはいけません。あとのことはすべて、神が計らせてくださるのですから！

フィリピン出身、東チモールの宣教師 **ホセ＝ドワイト・サンホアン神父**



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエル・ルイジ・カメローニ神父**

日本の宣教師、尊者**ヴィンチェンツォ・チマッティ** (1879-1965) は、総長ピエトロ・リカルドーネ神父あての手紙に次のように書いています：「宣教師の生活を離れたところから長い時間をかけて観察し、その言葉と行いをじっと見ている人は後を絶ちません。穏やかな快活さを生きるサレジオの精神、言葉に表明される青少年への関心のおかげで人々を惹きつけることができ、共鳴する人たちも現れます。そして、愛徳の魅力は抗いがたいものであり、いつくしみのわざは、異邦人を無関心のままではいさせません。」



サレジオ会の宣教の意向

中央・北ヨーロッパ地域のすべての管区で、プロジェクト・ヨーロッパが強化され、実り豊かなものになりますように。

ヨーロッパにおける大きく急激な社会的、文化的変化は、人々の間に、また一部の会員の間にさえ落胆をもたらし、信頼の心を弱めています。ヨーロッパがキリスト教信仰のルーツを忘れず、キリストに根ざす前向きな心、希望、美しさをもって福音を告げ、福音化する取り組みを続けますように、祈ります。

